

IVUS のシステムについて

赤松 俊二、岡本 博行

康生会武田病院・臨床工学科

冠動脈インターベンションの発展とともに冠動脈造影による診断の補助として血管内超音波法 (Intravascular ultrasound: IVUS) は日常的に施行されつつあります。IVUS により血管サイズ、病変の性状、石灰化の有無の評価などが可能となり、造影では判断が難しい場合のある、分岐部や入口部病変、Haziness 病変の評価、Stent 内再狭窄病変の評価などに有効であり、インターベンションにおいて重要な役割を担っています。近年、SOLD study や ABACUS trial にて動脈硬化性病変のデバルキングが、インターベンションのアキレス腱である再狭窄を軽減することが判明して以来、特にデバルキングを行う場合は、その治療デバイスの選択やエンドポイントの決定などに関して多くの情報を提供し、遠隔期成績にも役立つといわれています。IVUS 施行にあたってはスムーズな検査の進行および的確な読影が必要であり、そのために超音波の基礎的知識、適切な準備を行う必要があります。今回の私の役割は IVUS のシステムおよび検査までの準備に関し、述べたいと思います。